

浦安市総合計画概要版

未来の浦安の暮らし

—20XX年—

～みんなが望む幸せを～

未来の浦安の暮らし—20XX年—とは

浦安市では、新たな行政運営の指針として「総合計画」を策定しました。本計画では、10年後、20年後のまちのあるべき姿を明らかにし、それを実現するために取り組んでいく施策や事業を示しています。

本市では、まちのあるべき姿として、まちづくりの将来都市像を「人が輝き躍動するまち・浦安～すべての市民の幸せのために～」と設定しています。

この将来都市像は、「人」に視点をあて、個性と活力あるまちの方向性を示すものであり、副題である「すべての市民の幸せのために」は、市民一人ひとりがまちづくりの主体となり、これまで以上に多様な個性と価値観を共有し、誰もが幸せを実感できるまちにしたいと考え設定したものです。

幸せの形は人それぞれであり、市民の数だけ市民の幸せの形があります。

そこで、将来都市像をわかりやすくイメージできるよう、この「未来の浦安の暮らし—20XX年—」では、「人」に視点をあて、ライフステージごとに架空のモデルを設定し、総合計画に掲げた取り組みを実行することで、市民の生活がどのように変わっていくか、理想や期待も込めて、計画期間を超えて実現を目指すものも含め、未来(20XX年)の市民の幸せの姿を描きました。

未来の浦安で、どんな暮らしが待っているのか、少しだけのぞいてみましょう。

浦安市

1 子どもの個性と未来が輝く

ミカさん(中学生)のストーリー

小学5年生のトシキ君、小学2年生のアキラ君の2人の弟を持つ中学1年生のミカさん。

ミカさんの趣味は読書です。小学生のときに友達に誘われて行った子ども図書館でたくさんの本を読み、読書通帳に記録するようになってから、読書が好きになりました。

休日にも家族で子ども図書館に行って、親子でゆっくりと本を読んだ後、近くの商業施設で買い物や食事をするのが楽しみです。

ミカさんは弟2人の面倒を見てきていることもあり、学校でも学級委員をやっていて、クラスのまとめ役の存在です。洋上研修に参加したミカさんは、他校の上級生などとの集団生活を通して、将来は自分がリーダーになって社会に貢献したいと思う気持ちが一層強くなります。まずは自分の趣味の読書で貢献できないかと考え、地域の人と一緒に図書館で読み聞かせのボランティアをはじめました。



多くの観客の前で輝いている選手たちを見て、アキラ君は将来スポーツで活躍したいという夢を持つようになりました。

ミカさんたちの両親は、住民による防犯見守り活動に参加していて、夜の見回りを行っています。この活動団体では、子どもたちの登下校時には、仕事をリタイアしたシニアの方々などが通学路の見回りをしています。そこで活動するシニアのカツミさんは、子どもたちとも顔なじみで、浦安の文化財の保存活動も行っています。

休日には、カツミさんは仲良くなった子どもたちと郷土博物館に行って、浦安の伝統文化について教えたりしています。

趣味や特技、将来の夢、それぞれ違うミカさん兄弟。それぞれの個性や可能性を伸ばせる20XX年の浦安には、ミカさんたちの“幸せ”が詰まっています。



トシキ君の趣味はゲームです。eスポーツ大会が全国で盛んに開催されていますが、浦安でも毎年大きな大会が開催されていて、トシキ君も観戦に訪れ、ICTに興味を持ちます。

学校の授業では、どの科目でもICTが活用されていて、一人一台タブレットを持っているので、ゲーム好きの仲間と一緒にプログラミングで習った知識を応用して、苦手だった英語を楽しく学べるよう、英語学習ゲームを作りました。これが学校で噂となって、「放課後うらっこクラブ」の交流活動でトシキ君の英語学習ゲームが紹介されました。みんなで英語を学習したり、プログラムの作り方についてトシキ君が教えたりして楽しく学んでいます。

トシキ君は、友達に喜んでもらったのをきっかけに、低学年向けや他の科目のゲームも作りたいと考えており、将来は人の役に立つアプリやサービスを開発したいと考えています。

アキラ君はスポーツが得意で、地元のスポーツクラブに所属していて、いろいろな種目を楽しんでいます。アキラ君のクラブは、健常者だけでなく障がいのある方も楽しめるスポーツがあって、一緒になって汗を流しています。市内のスポーツ施設はバリアフリー化が行きわたっていて、障がいのある方もスポーツを楽しめます。

ある日アキラ君の学校で、授業の一環として、市内のラグビーチームの選手が来ました。日本のトップリーグで戦う選手と身近に交流できたことでアキラ君はそのチームに興味を持つようになりました。これをきっかけに、休日は家族でラグビーの試合を観に行き、家族全員チームのファンになりました。



基本計画における関連施策

施策分野		展開内容
1-1-2	健全育成	(1)子どもの健やかな成長と豊かな心を育む環境づくり
1-2-1	学校教育	(1)特色ある教育の推進
1-2-1	学校教育	(3)教育環境の向上
1-2-1	学校教育	(4)地域とともに子どもを育む体制の推進
1-3-1	生涯学習	(1)市民一人ひとりが学ぶ機会の充実
1-3-3	スポーツ	(1)多様なニーズに対応したスポーツ機会の充実
1-3-3	スポーツ	(2)誰もがスポーツを楽しめる施設の充実
1-3-3	スポーツ	(3)スポーツへの関心を喚起する取り組みの推進
2-2-2	障がい者福祉	(3)権利擁護の促進
3-1-2	防犯・消費生活・交通安全	(1)防犯体制の強化
4-1-1	観光・リゾート	(1)アーバンリゾートゾーンの振興とMICEなどの誘致

2 働き、まちで楽しむ

ユズルさん(单身社会人)のストーリー

单身社会人のユズルさん。

平日は、最寄りの舞浜駅から、渋谷方面の職場まで通勤しています。

駅までは少し距離があるため、バスを利用しています。以前はテーマパークへの来訪者の混在で、駅前広場が混雑していましたが、20XX年の浦安では、舞浜駅周辺の整備が進み、駅北口に路線バスのロータリーが整備されるなど、来訪者のための機能と住民のための機能が分離され、混雑なくバスで舞浜駅まで行けるようになり喜んでいきます。



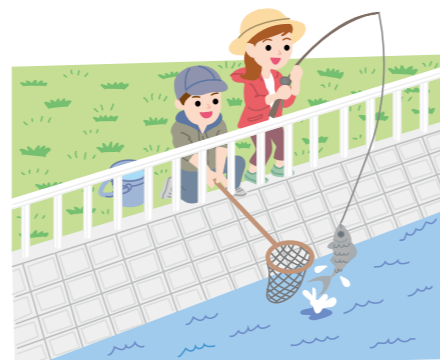
駅のホームにはホームドアが設置され、ユズルさんが通勤時によく見かける白杖を持った男性が以前より歩きやすそうにしている姿も見られるようになり、ユズルさん自身も安心して駅を利用しています。

また、20XX年には、京葉線とりんかい線の相互直通運転が実現していて、職場まで乗り換えなしで行くことができ、さらに、列車の本数も増え、ホームや車内の混雑も緩和されていて、電車の中で読書しながら快適に通勤しています。

休日は、以前は都内まで出て遊ぶことが多かったユズルさんですが、20XX年の浦安には、アーバンリゾートゾーンのテーマパークや大型商業施設だけでなく、遊べるスポットやイベントがたくさんあり、市内で過ごすことが多くなりました。

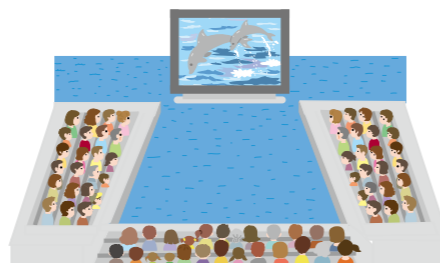
ユズルさんたちのデートは地元デートが定番です。

20XX年の浦安では、海を身近に感じられる空間が増えていて、公園や海岸沿いの緑道を散歩しながらのんびり過ごしたり、港地区の海岸で釣りを楽しんだりしています。



境川河口部に整備されたイベント空間では、毎月イベントが開催されていて、ユズルさんたちもよく参加しています。他とは一味違う開放感や非日常感を味わえ、他の参加者との一体感が生まれるのがとても嬉しいそうです。

数年前、恋人のナホさんに誘われ、市内の文化施設で初めてクラシックコンサートを鑑賞したユズルさん。初めて生で聴く演奏と会場の臨場感に圧倒され、それ以来クラシックが好きになりました。調べてみると、浦安では様々な文化施設でコンサートが行われていることを知り、よくナホさんと鑑賞しています。



数年前、「街頭パフォーマンスライセンス」を取得し、新浦安駅前広場や境川河口部のイベント空間でパフォーマンスを披露するなど、浦安を拠点に活動し腕を磨いたバンドがデビューし、全国的にも人気を博しています。

20XX年の浦安では、このバンドに続こうと市外からも多くのパフォーマーが街頭パフォーマンスライセンスを取得し、市に認められたレベルの高いパフォーマンスを披露しており、新浦安駅前広場は大いに盛り上がっています。

ユズルさんも新浦安駅前広場でパフォーマンスを披露したいと考えている一人です。

ある日、ユズルさんが新浦安駅で買い物をした帰りにバス待ちをしていたら、駅前広場のステージでギターを披露している人を見つけ、そのパフォーマンスのレベルの高さと観客の盛り上がりによりユズルさんは驚き見入ってしまいます。

学生時代はプロを目指しギターの練習をしていたユズルさん。社会人になり、披露する場がなくなってからは、ギターを手に取ることも少なくなっていました。今では街頭パフォーマンスライセンスを取得して駅前広場のステージで演奏を披露することを目標に、日々ギターの練習に励んでいます。



平日は仕事を頑張り、休日は思いきり遊んで楽しみたいユズルさん。20XX年の浦安には、ユズルさんにとっての“幸せ”が詰まっています。

基本計画における関連施策

施策分野	展開内容
1-3-2	文化 (2)市民が文化芸術に触れる機会の充実
3-2-1	水辺環境 (1)水辺のネットワークの形成
3-2-1	水辺環境 (2)河川環境の整備・活用
3-2-1	水辺環境 (3)海岸環境の整備・活用
3-3-2	道路・交通 (2)誰にもやさしい公共交通網の充実
4-3-1	拠点整備 (1)都市拠点の整備・充実

3 浦安の魅力発見

ヒサシさん(最近引っ越してきた夫婦)のストーリー

結婚を機に浦安に引っ越してきたヒサシさん夫婦。
以前は職場のある都内に住んでいましたが、リゾートや綺麗な街並みに憧れ引っ越してきたのです。

浦安への引っ越しを検討しているときにヒサシさんが心配していたのは浦安の防災面です。
今後発生が予測されている首都直下地震などの大規模地震を特に心配していたヒサシさんですが、不動産会社の方から、市では道路や下水道、建物の耐震化のほか、密集市街地の改善や無電柱化など、震災対策に力を入れていることを聞きます。

また、浦安は海と河川に囲まれていることから、水害も心配でしたが、20XX年の浦安では、全市的に雨水貯留施設の整備が進み、境川の河口部には水門と排水機場が整備されるなど、水害対策が大きく進み、以前は大雨時に頻繁に見られた道路冠水も見られなくなりました。

自分でも水害ハザードマップを確認したうえで、浦安は災害に強いまちだと思い、安心して引っ越しできました。

浦安には知り合いも友達もないヒサシさん夫婦。団地内の共同清掃に参加して住民の方と接するうちに、もっと地域のことや人を知りたいと思うようになり、自治会に入って地域のイベントに参加します。

20XX年の浦安では、自治会や老人クラブなどの地縁団体に入っていない人も地域のイベントや訓練などに参加するのが当たり前になっていて、子どもから高齢者、障がいのある方まで、熱心に参加している状況にヒサシさんは驚きます。

自治会長に話を聞くと、こうしたイベントなどを通して地域の人たちのつながりができることで、どこにどんな人が住んでいるか把握でき、災害時などのいざというときにみんなで助け合えるのだと言っていました。

同世代の若い人も仕事をしながら、「自分たちの地域は自分たちで良くしたい」と言って地域活動をしている姿に刺激を受け、ヒサシさんも清掃活動や防犯パトロールなど、できるところから活動に参加するようになり、今では地域水防団にも入り日々訓練に励んでいます。

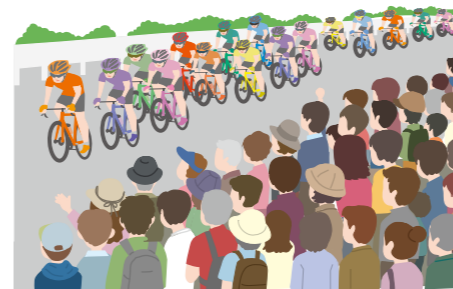
ヒサシさんは、こうした活動を通して、最近引っ越してきた自分でも地域に貢献しているという実感が得られ、仕事以外にやりがいを感じられるものができたことを喜んでいきます。



ある日、ヒサシさん夫婦が舞浜地区の海岸沿いでサイクリングを楽しんでいると、街中にアートが設置されていることに気が付きます。2年に1回開催される美術展「浦安ビエンナーレ」が開催されていて、まちなかのいたるところにアートが設置されているのです。そこで、夫婦はまちなかのアート巡りをします。

浦安についてもっと知りたいと思っていたヒサシさん。アート巡りをする中で、浦安の様々な側面を知ることになります。

舞浜地区では、スーツ姿の外国人の集団と多くのスポーツのユニフォーム姿の人たちを見かけ、新浦安駅前のデジタルサイネージで

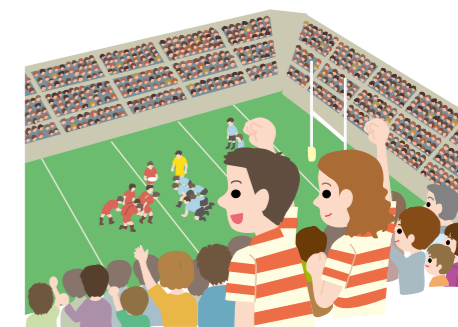


は、自転車ロードレース「浦安クリテリウム」の開催案内を見つけます。
20XX年の浦安は、日本有数の国際会議観光都市として、頻りに国際会議が開催され、新たな観光スタイルも確立されており、会議の後には、会議出席者やその家族が、テーマパークのほか、屋形船で日本文化を満喫したりして、観光を楽しんでいます。

また、舞浜地区に整備されたスタジアムでラグビーやサッカーの試合が行われるときや「浦安クリテリウム」が開催されるときには、市内は大いに活気づきます。

20XX年の浦安はリゾートだけでなく、「アートのまち」「国際会議のまち」「観光のまち」「スポーツのまち」として国内外から多くの人を集めるまちになっていて、ヒサシさんは、こんなまちに住めることに誇りを持ちます。

引っ越してきたばかりで浦安について知らないことばかりでしたが、これから魅力的で愛着を持てるまちで暮らしたいと思っていたヒサシさん。20XX年の浦安には、ヒサシさんにとっての「幸せ」が詰まっています。



基本計画における関連施策

施策分野		展開内容
1-3-2	文化	(2)市民が文化芸術に触れる機会の充実
1-3-3	スポーツ	(3)スポーツへの関心を喚起する取り組みの推進
2-3-2	コミュニティ	(1)自治会活動の活性化に向けた支援の充実
3-3-1	防災・消防	(1)地域主体の防災対策の充実
3-3-1	防災・消防	(2)震災に強い都市基盤の整備
3-3-1	防災・消防	(3)密集市街地の改善
3-3-1	防災・消防	(4)治水・排水体制の充実
3-2-1	水辺環境	(3)海岸環境の整備・活用
4-1-1	観光・リゾート	(1)アーバンリゾートゾーンの振興とMICEなどの誘致
4-1-1	観光・リゾート	(2)地域資源を活用した観光振興の推進

4 社会が支える子育て

アヤさん(3歳の子育てをしている夫婦)のストーリー

市内で働く夫のリョウさんと3歳の子育てをしているアヤさん。

妊娠したときは、初めての妊娠にとっても不安がありましたが、浦安市が運営する子育てサイトからの情報をはじめ、電話や健康センターでの保健師などへの相談、育児経験のある地域の先輩パパ・ママからのアドバイスを通して、少しずつ不安が解消されていきました。

夫のリョウさんは、数年前に一念発起し、市内で会社を創業しました。創業を大きく後押ししたのは、商工会議所主催の創業支援セミナーや経営のノウハウを実践できる場があったことです。セミナーで創業を目指す多くの仲間から刺激を受けたことも、創業に踏み切るきっかけになりました。その後も創業準備から事業化までの各段階にあった支援やアドバイスを受けられ、スムーズに事業を軌道に乗せることができました。

リョウさんの会社では、多様で柔軟な働き方を推進しており、従業員は出産や育児、介護などをしながら安心して仕事を続けることができます。



アヤさんは仕事復帰に向けて、子どもを預けることになりましたが、浦安にはたくさんの保育園やこども園があるので、待機児童の心配もなく、また、子どもが病気有的时候には、病児・病後児保育を利用するなどして、仕事をしながら自分たちが望む環境での育児を選択できました。

また、子育てにかかる経済的な負担を心配していたアヤさんですが、子ども医療費の助成や学校給食費の無償化など支援が充実しているため、2人目、3人目の子も考えています。

アヤさん夫婦は、子育てをしている中で、近くの公民館で行われるパパ・ママ同士の交流の場のほか、公園や子育て支援施設などの子どもを遊ばせる場で多くの子育て家庭の友人ができ、些細なことでも気軽に相談し、子育てに関する情報交換もできるので心強く感じています。

また、友人たちと情報交換する中で、浦安には様々な家庭環境で子育てをしている人がいて、みんな楽しく子育てをしていると感じます。

子育て支援センターで知り合ったユカさんは、一人で子どもを育てていますが、ひとり親家庭に対する手当や支援が充実していて、地域の中で相談できる環境があるので、安心して子育てができると言っていました。

子育てサロンで知り合ったミノリさんは、障がい児と健常児の兄弟を育てていますが、こども発達センターや青少年発達サポートセン



ターなど発達の段階に応じた相談・療育体制が充実していて助かると言っていました。

また、20XX年の浦安には、県立の特別支援学校が整備され、身近な場所で子どもの障がいにあった指導や支援を受けられ、卒業後も雇用の促進や就労支援、グループホームなどの多様な住まいの場の確保などにより、障がいのある方が安心して自分らしく生活を送ることができる環境が整っています。

子どもには、将来自分の力で生きていけるようになってほしいと考えているミノリさんは、ずっと浦安に住み続けたいと言っていました。

アヤさん自身が、色々な人や地域に支えられながら孤独感や不安感なく子育てができた経験と、子育て家庭の友人から聞いた話から、浦安では、どんな家庭環境の人でも安心して子育てができることを感じたアヤさん。今では市外に住む親せきや友人に「子育てをするなら浦安」と勧めています。

仕事をしながら、安心して子どもを育てたいと思っていたアヤさん。20XX年の浦安にはアヤさんにとっての“幸せ”が詰まっています。



基本計画における関連施策

施策分野		展開内容
1-1-1	子育て	(1)安心して子育てできる環境づくり
1-1-1	子育て	(2)保育サービスの充実
1-1-1	子育て	(3)多様な子育て支援サービスの充実
1-2-1	学校教育	(2)一人ひとりの個に応じた指導の充実
2-2-2	障がい者福祉	(1)障がいのある方を支える環境づくり
2-2-2	障がい者福祉	(2)自立と社会参加の促進
4-2-1	地域産業	(2)産業を支える人材の育成・確保
4-2-1	地域産業	(3)経営基盤の安定・強化

5 新たな生活を自分らしく

ナツコさん(母親の介護をしながら働く会社員)のストーリー

市外で夫のケイさんと二人で暮らしていたナツコさん。

数年前、子どもが大学生になり一人暮らしを始め、自分の時間や夫婦ふたりの時間を持てるようになったと思っただけで、浦安に住む母親のマリコさんが脳梗塞で倒れてしまい、介護のために浦安に引っ越し、一緒に暮らしはじめました。

引っ越しにより職場が少し遠くなってしまったナツコさんですが、テレワークを活用するなど、在宅勤務で介護をしながら仕事を続けています。

また、平日は市外に通勤するケイさんを新浦安駅まで車で送り迎えています。駅前広場が整備され、車での乗り降りがしやすくなり、また、駅北口のバスベイが整備されたことで若潮通りの混雑も緩和され、送り迎えが快適になり喜んでます。



仕事と介護が忙しく、市役所の窓口に行く時間もなかなか取れないナツコさんですが、20XX年には、マイナンバーカードで様々な行政手続きが24時間自宅でできるようになっていて助かっています。また、クレジットカードや診察券など、様々な機能がマイナンバーカードで活用できるようになっており、ナツコさんにとって手放せないものになっています。



マリコさんは、数年前、脳梗塞で倒れ、救急車で市内の病院に運ばれ、緊急手術を受けました。一命はとりとめたものの、左半身の麻痺と高次脳機能障がいが残ってしまいました。2か月後、リハビリ専門病院に転院しましたが、どちらも市内であったため、マリコさんの負担は最小限で済み、安心して治療とリハビリに専念できました。半年ほどで左半身の麻痺はかなり改善し、退院することができました。

在宅にあたっては、医療、福祉、介護の関係者が定期的な連絡を取り合い、情報共有を図るとともに、状況に応じた支援の方向性を検討してくれるので、ナツコさんも安心して専門家に任せ、できる限りのサポートに徹しています。マリコさんはデイサービスに通うほか、訪問看護や介護支援を利用して、在宅でのリハビリも継続しています。週に2回はヘルパーさんが、マリコさんの分に加えて、ナツコさん夫婦の分も食事を作ったり、洗濯、掃除もしてくれるので、空いた時間でマリコさんのリハビリに付き合うことができ、助かっています。



慣れない介護と仕事の両立ができるかとても不安だったナツコさんですが、20XX年の浦安では、介護者同士の交流の場が充実しており、同じ悩みを持った人たちと話をすることで少しずつ不安が解消されていきました。

認知症カフェで知り合ったイズミさんは、ナツコさんと同じく親の介護をしながら仕事をしています。

市の支援や家族、地域の人たちの支えもあり、少し自分の時間が持てるようになったナツコさんは、イズミさんに誘われ、市内の大学で実施されている介護に関する生涯学習講座に通い始めます。

講座には、シニア層に加え、ナツコさんのような現役のビジネスパーソンも多く参加していて、学習意欲が高く、グループディスカッションでは様々な意見が出て刺激になり、介護だけでなく、仕事の質の向上にもつながっています。

講座の後に、イズミさんと食事をするのもナツコさんの楽しみのひとつで、介護や仕事の合間の良い息抜きになっています。

定年退職も意識しはじめていたナツコさんは、講座を受講して、定年後は講座で得た知識や介護の経験を活かして地域に貢献したいと考えています。



自分を育ててくれた母親の介護に力を尽くしながらも、仕事は頑張りたいと思っていたナツコさん。20XX年の浦安には、ナツコさんにとっての“幸せ”が詰まっています。

基本計画における関連施策

施策分野		展開内容
1-3-1	生涯学習	(1)市民一人ひとりが学ぶ機会の充実
1-3-1	生涯学習	(3)学びによる豊かな地域づくりの推進
2-1-2	医療	(1)地域医療体制の充実
2-2-1	高齢者福祉	(3)要介護者・介護者支援の充実
3-3-1	市街地・住宅	(2)良質な住宅ストックの形成
4-3-1	拠点整備	(1)都市拠点の整備・充実
第6章	行政運営	(2)行政資源を最適に活用した行政運営の推進

6 いつまでも生き生きと

タカシさん(高齢者夫婦)のストーリー

昨年定年退職したばかりのタカシさん。

現役中は仕事人間だったため、毎日することがなく、生きがいを失いかけています。

現役中は仕事ばかりしていたため、近所に知り合いもなく、退職後は毎日家でごろごろして、妻のヤスヨさんと衝突してばかりで、気持ちがふさぎ、体調も思わしくありません。とにかく何かしようと思い、駐輪場管理の仕事を始めると、体調も良くなり、家庭の雰囲気も明るくなりました。さらに仕事で得た収入で、夫婦旅行に出かける楽しみもできました。



仕事をして、まだまだやれることがあると自信を持ったタカシさんは、長年お世話になった地域のために何かしたいと考えます。タカシさんが住む地区は密集市街地で、防災上の懸念があり、地区の整備や一部住宅の建て替

えによる不燃化も進んでいますが、これをさらに進める必要があります。そのためにはどうしたら良いか、地区住民と一緒にまちづくりを考える活動に参加しました。また、市では「無電柱化」を推進しています。電柱や電線を地中に埋設することで、災害時の電柱倒壊被害をなくしたり、歩道を広く使え、交通安全にもつながるため、住民としてもこれを後押ししていきたいと思っています。

現役時代、建設の仕事をしてきたタカシさんは、これまでに培ったスキルを活かして、勉強会や講座を主催していますが、どんどん仲間が集まって、今では地区だけでなく、浦安全体のまちづくりを考える活動に発展しています。



公民館での活動の帰り、ふと将棋サークルのチラシが目にとまりました。若いころに趣味でやっていた将棋を、またやってみようというサークルに参加し、めきめき腕を上げています。小学校の将棋クラブの手伝いもするようになり、子どもたちから元気もらっています。

これからも生涯現役を買いたいと考えたタカシさん。健康でなければこれからの人生は楽しめないと思い、健康の維持・増進に努めています。市の健康診断やがん検診を積極的に受け、周囲にも受診を勧めています。

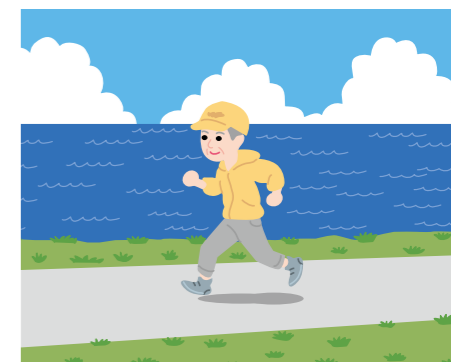
日常生活でも常に健康を意識し、食生活に気を遣うようになり、ジム通いも始めました。



週末には妻のヤスヨさんと一緒に市内のスポーツ施設でテニスを楽しんでいます。

20XX年の浦安では、学校の校庭や体育館、大学や民間のスポーツ施設などが開放されており、土日に使えるスポーツ施設が多く、タカシさん夫婦も身近な場所で気軽にスポーツを楽しむことができます。

最近、ヤスヨさんと総合型地域スポーツクラブにも参加しており、自分の体力に合わせてこれまでにやったことがない色々なスポーツに挑戦しています。



公園や緑道、海岸の整備が進んだ20XX年の浦安。坂がなく道も広いので、ジョギングやウォーキングにはとても良い環境です。タカシさんは、天気の良い日に、季節の移り変わりを感じながら気持ちよくジョギングをしています。最近では、タイムも伸びてきて、今は東京ベイ浦安シティマラソンでハーフマラソンに挑戦することを目標にしています。

自分の生きがいを見つけ、生涯現役を買いたいと思っていたタカシさん。20XX年の浦安には、タカシさんにとっての“幸せ”が詰まっています。

基本計画における関連施策

施策分野	展開内容	
1-2-1	学校教育	(4)地域とともに子どもを育む体制の推進
1-3-1	生涯学習	(2)市民がつながり交流する機会の充実
1-3-3	スポーツ	(1)多様なニーズに対応したスポーツ機会の充実
1-3-3	スポーツ	(2)誰もがスポーツを楽しめる施設の充実
1-3-3	スポーツ	(3)スポーツへの関心を喚起する取り組みの推進
2-1-1	健康	(1)自主的な健康づくりの促進
2-1-1	健康	(2)疾病の予防及び早期発見・早期治療の促進
2-2-1	高齢者福祉	(4)生きがいづくりや社会参加の促進
3-1-1	防災・消防	(2)震災に強い都市基盤の整備
3-1-1	防災・消防	(3)密集市街地の改善

7

支え合い、安心して暮らす

ケイコさん(独居高齢者)のストーリー

夫に先立たれ一人暮らしになったケイコさん。
市外で暮らす息子が一緒に住もうと言いますが、住み慣れた浦安を離れたくありません。

近所の自治会館に、地域包括支援センターのサテライトとして、定期的に相談員が来ているので、友達に誘われて、茶飲みついでに通っています。世間話をしながら、市の支援や介護保険の制度などをわかりやすく教えてもらい、将来への漠然とした不安が和らいだような気がします。介護予防の体操教室にも参加しており、たまに顔を見せない仲間がいると、心配で家を訪ねたりもしています。



車の運転について息子から反対されていましたが、生活が不便になるため、やめられませんでした。しかし買い物支援などが受けられると聞いて、思い切って免許を返納しました。日常生活支援が充実しており、今のところ不便は感じていません。もらったバス券で、普段行かない場所へ出かけるのも楽しみです。



家族4人で暮らしていた一戸建ては、ケイコさん一人では広すぎるし維持管理も大変なため、引っ越しを考えていました。市の住み替え支援が充実していて、同じ生活圏内のマンションに、スムーズに住み替えができました。

今後、体の自由が利かなくなっても、特別養護老人ホームやグループホームなど、状況に応じた住まいの場が市内に充実しているので、これからも浦安に住み続けられると思うと安心です。

マンション前の公園に花がなく寂しかったので、友達と一緒に市に相談して、花壇を作りました。明るくなった公園に愛着がわいて大切にしたいと考え、今では清掃や除草をしたり、遊具が壊れていたら市に連絡するなど、普段の維持管理も行っています。

きれいになった花壇の前で、時折花をじっと見つめている女性がいて、話をするようになりました。近くのグループホームで生活しながら、就労支援のカフェで働くサヤカさんでした。花が大好きなサヤカさんは、ケイコさんたちの活動に参加するようになりました。いつも笑顔のサヤカさんから、ケイコさんも元気をもらっています。



グループホームの支援員さんとも話すようになり、市内で暮らす障がいのある方たちの話も聞きました。重い障がいのある方は、長時間椅子に座って口を開けていることが難しいため、近所の歯医者さんでは診てもらえず、遠方の病院まで行かなければならないので、なかなか虫歯の治療ができずにいたそうです。それが最近、市内で診てもらえるようになって、とても助かっているとのこと。自分では考えたこともなかった問題でしたが、こうしてみんなが少しずつ、暮らしやすいまちになっていくのは素敵だなと感じました。

公園でよく遊んでいる親子や小学生とも顔見知りになりました。同じマンションに住むヤストシ君とは特に仲良くなり、家で勉強を見てあげています。代わりにヤストシ君がスマホの使い方を教えてくれたり、友達を連れてきて一緒にゲームをすることもあります。ヤストシ君の両親も、一人暮らしのケイコさんを気にかけてくれ、家族ぐるみの付き合いとなっています。近くで見守ってくれる人がいることで、ケイコさんの息子も安心したのか、同居の話はしなくなりました。



高齢で一人暮らしではありますが、住み慣れた浦安にずっと住み続けたいと思っていたケイコさん。20XX年の浦安には、ケイコさんにとっての“幸せ”が詰まっています。

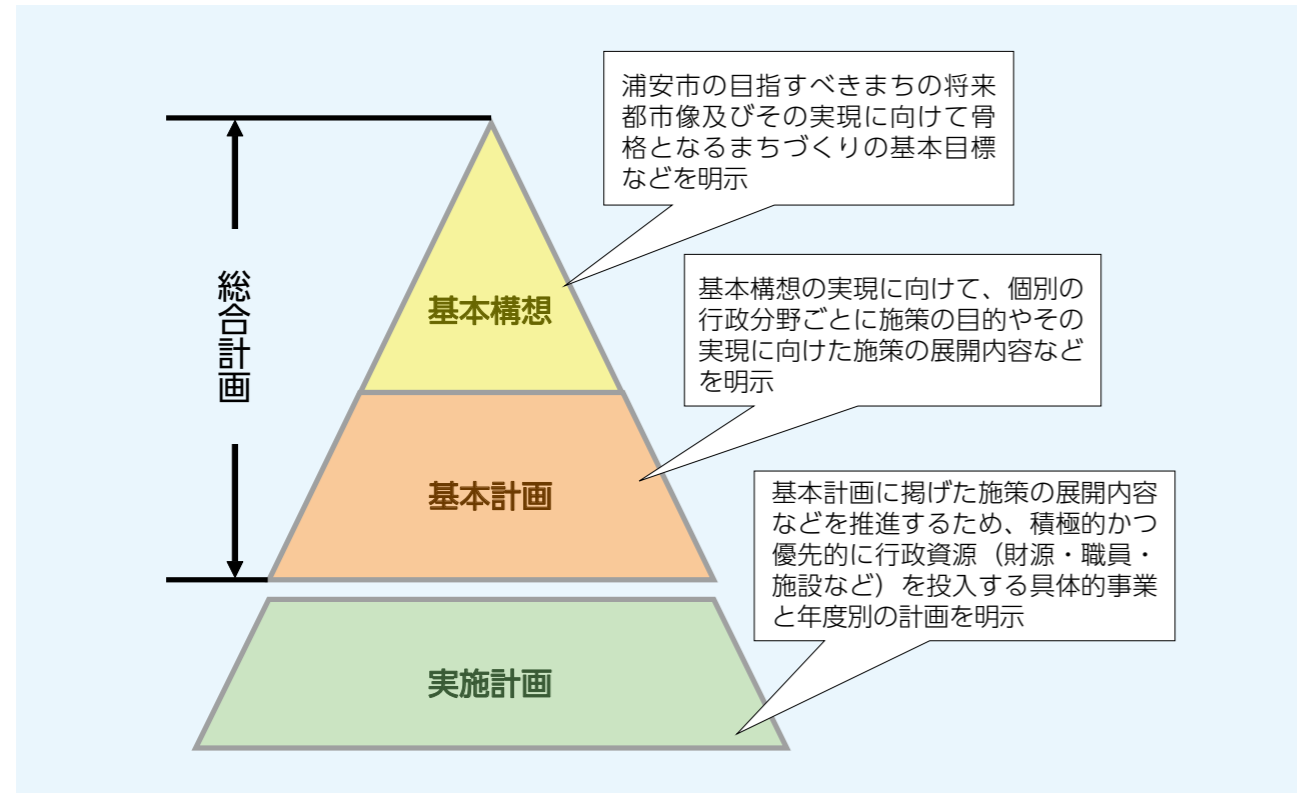
基本計画における関連施策

施策分野		展開内容
2-2-1	高齢者福祉	(1)地域包括ケアシステムの充実
2-2-1	高齢者福祉	(2)介護予防や日常生活支援の充実
2-2-1	高齢者福祉	(3)要介護者・介護者支援の充実
2-2-2	障がい者福祉	(1)障がいのある方を支える環境づくり
2-2-2	障がい者福祉	(2)自立と社会参加の促進
2-2-3	地域福祉	(1)地域全体で支え合う活動の推進
3-1-2	防犯・消費生活・交通安全	(3)交通安全対策の推進
3-2-2	公園・緑地	(4)多様な主体との連携によるみどりの育成
3-3-1	市街地・住宅	(2)良質な住宅ストックの形成

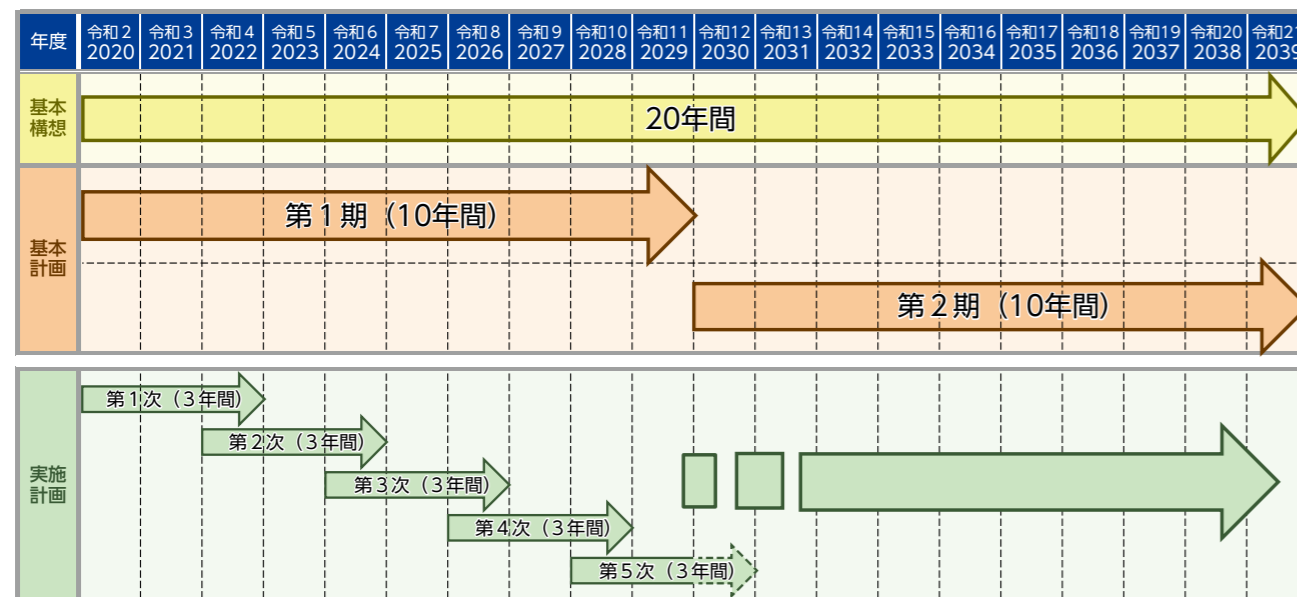
1 総合計画の構成と期間

市では、10年後、20年後の本市が目指す将来都市像や基本目標を明らかにし、市民と行政が一体となって総合的、計画的にまちづくりを推進していく基本方針となる「総合計画(基本構想・基本計画)」を策定しました。

(1) 総合計画の構成



(2) 総合計画の期間



2 まちづくりを取り巻く現状と課題

(1) 人口から見た本市の状況(将来的な人口の見通し)

本市の人口は、増加基調となっておりますが、令和16年(2034年)の17万9千人をピークとして、それ以降は減少に転じます。



(2) 財政収支の見通し

人口の伸びが鈍化傾向に転じることや、少子高齢化の進展による人口構造の変化などに伴い、市税収入は減少傾向に転じるものと想定されます。

一方、経常的な経費は、高齢者人口の増加を背景に社会保障関連経費などが継続的に増加し、基本計画の期間10年間で約40%の増加が見込まれ、加えて昭和50年代に集中的に整備してきた公共施設の維持補修、ごみ処理施設の延命化対策など、多額の経費が必要とされます。

そのため、財政調整基金の活用や新たな財源の確保など、持続可能な財政運営の堅持に努めます。

(3) 今後のまちづくりに向けた主要課題

- ① 人口構造の変化への対応
- ② 次世代のまちづくりを担う子どもたちが健やかに成長できる環境の充実
- ③ 誰もがいつまでも自分らしく生き生きと暮らせる環境の充実
- ④ 住宅都市としての魅力や付加価値の向上
- ⑤ 安全・安心で快適な暮らしを支える都市機能の向上
- ⑥ 将来にわたって持続可能なまちづくりを支える行財政基盤の強化

3 将来都市像

まちは人の意思によって創られます。
浦安はこれまで他に類を見ない発展を遂げてきましたが、その発展は先人たちの確固たる意思のもとにまちづくりが進められた結果です。社会環境の大きな変化の中で、先人たちから浦安を受け継いだ私たちには、次世代に浦安の輝きを継承していくことが求められます。そのため、一人ひとりがまちづくりの主体としての意思を持ち、誰もが自分らしく輝き、生き生きと活動し、人が、そしてまちが躍動する「浦安」を創っていかねばなりません。ここに、すべての市民の幸せを願い、浦安市のまちづくりの将来都市像を

人が輝き躍動するまち・浦安 ～すべての市民の幸せのために～

と設定し、まちづくりを進めていきます。

4 まちづくりの基本姿勢

基本姿勢1 安全・安心

生命・財産を守ることが、市民一人ひとりの幸せの礎となります。
また、社会環境が大きく変化する中でも、安定した市民生活を確保することが求められています。
そのため、誰もが災害や犯罪などから守られ、穏やかに暮らせる「安全・安心」のまちづくりを基本とします。

基本姿勢2 共生・尊重

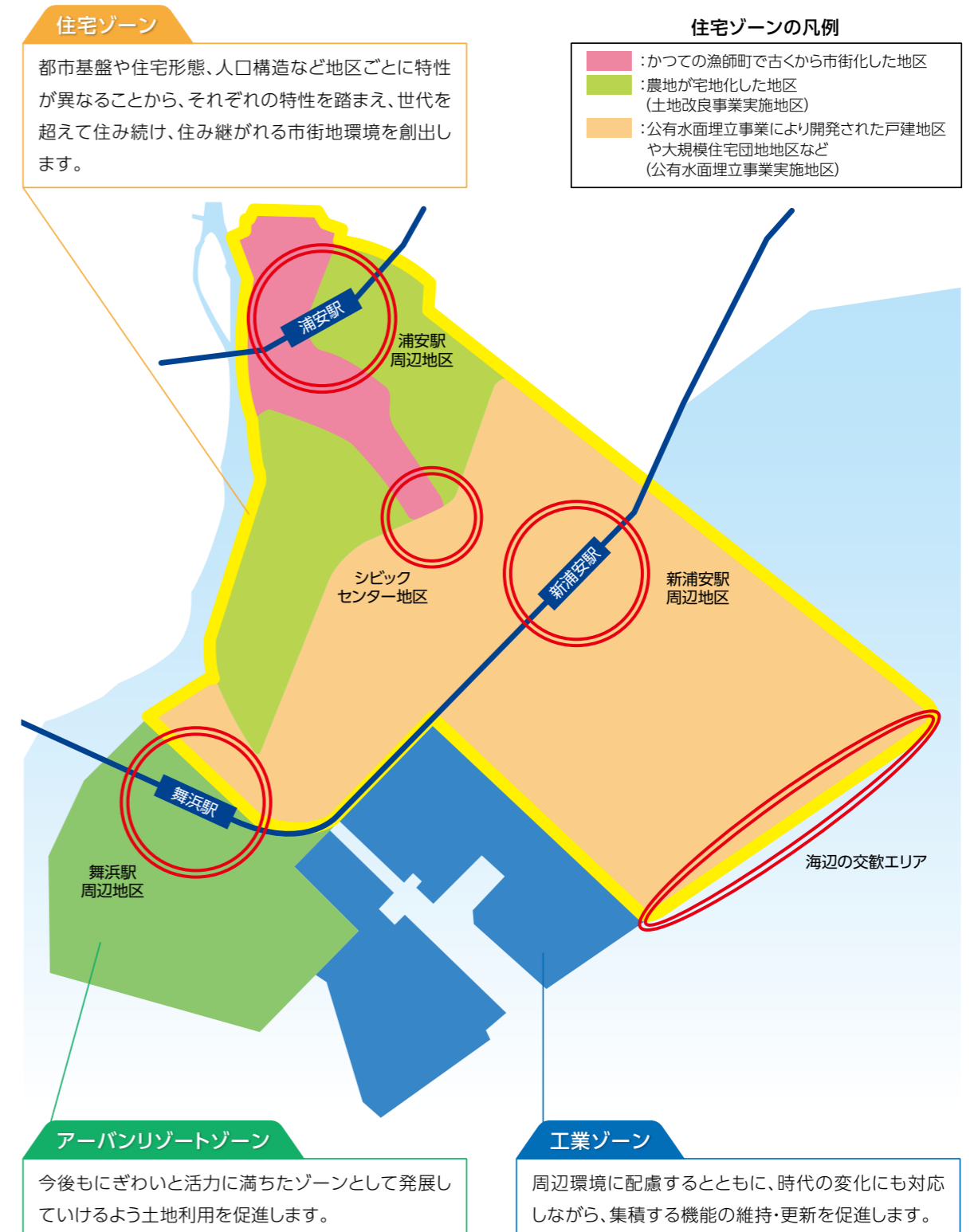
多様な個性や価値観を認め合うことによって、市民一人ひとりの生活が輝きを増します。
また、誰もが地域の中で生き生きと暮らし、共に支え合う社会の形成が求められます。
そのため、相互の理解と交流のもと、人権が尊重される「共生・尊重」のまちづくりを基本とします。

基本姿勢3 自主・連携

市民一人ひとりの思いと行動の積み重ね、そしてその結集がまちの躍動につながります。
また、ひとつのまちでは解決できない課題については、広域的な取り組みが求められます。
そのため、市民が自立し主体的にまちづくりに参画し親和するとともに、国や千葉県、近隣自治体と連携する「自主・連携」のまちづくりを基本とします。

5 都市構成の基本的な考え方

今後も活力を維持し魅力あふれる都市として発展していくため、「住宅ゾーン」「工業ゾーン」「アーバンリゾートゾーン」の3つの都市構成を維持しつつ、時代の変化に適切に対応した土地利用を図るとともに、各地域の特性や集積する機能を活かした拠点の充実と拠点間の連携を図ります。



6

施策の体系

基本構想

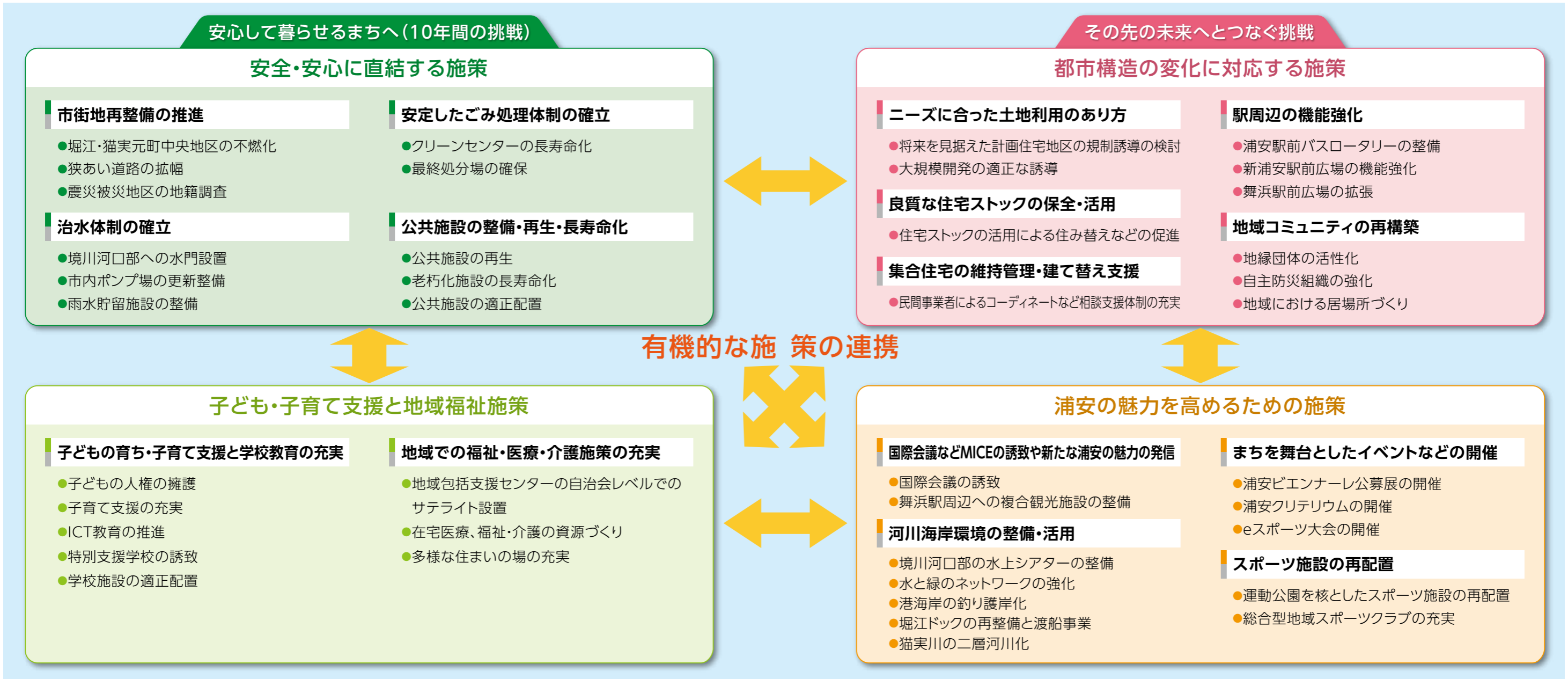
基本計画



7

うらやすポリシーミックス ～豊かな成熟社会を創造 するための挑戦～

将来都市像を実現するためには、市民、事業者、市が連携して、様々な施策を効果的に組み合わせることが重要です。このため、重要度や緊急度を見極めた施策の展開を図るため「うらやすポリシーミックス」を設定し、豊かな成熟社会の創造に向けて取り組みます。



真に必要な施策の効果的な実行により、将来都市像の実現を目指す

人が輝き躍動するまち・浦安 ～すべての市民の幸せのために～



浦安市

お問い合わせ先

浦安市 企画部 企画政策課

〒279-8501 千葉県浦安市猫実一丁目1番1号

電話 047-351-1111(代表)

浦安市ホームページURL <http://www.city.urayasu.lg.jp>